

56,320 ㎡である。ハナショウブは約250品種5万株があり、スイレンは約10種、ハスは大賀バス・中日友誼蓮・原始蓮・茶碗蓮など約20品種がある。

**湿生植物** フィリフトイ、イグサ、タテジマフトイ、アンペライ、サンカクイ、キンコウカ、サワギキョウ、ショウブ、フィリショウブ、セキショウ、サギソウ、ハンゲショウ、ミズオトギリ、ミソハギ、エゾミソハギ、トクサ、アキタブキ、クロヅワイ、ミズキンバイ、エンコウソウ、ミズタガラシ、カキツバタ、フィリカキツバタ、ノハナショウブなど。

**抽水植物** ミクリ、ウリカワ、アギナシ、オモダカ、ヤエオモダカ、アオグワイ、サジオモダカ、ヘラオモダカ、コナギ、フィリガマ、ヒメガマ、ミツガシワ、コウホネ、ベニコウホネ。

**浮葉植物** アサザ、オニバス、ヒツジグサ、ガガブタ、トチカガミ、ヒシ、ヒメビシ、オニビシ、ジュンサイ、デンジソウ。

**沈水植物** セキショウモ、ネジレモ、エビモ、ササバモ、ガシャモク、ヤナギモ、マツモ、フサモ、ホザキノフサモ、クロモ、トリゲモ、イバラモ、シャジクモなど。

**食虫植物** ムジナモ、タヌキモ、イトタヌキモ、コタヌキモ、モウセンゴケ、コモウセンゴケ、イシモチソウ、ミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ、ハエジゴク、サラセニアハイブリッド、フタマタモウセンゴケ、ヨツマタモウセンゴケ、ナガバイシモチソウ。

**帰化および外国産水草** ハイドロコチレ、ウォーターポッピー、ミズカンナ、シュロガヤツリ、パラグアイオニバス、オランダガラシ、オオフサモ、オオカナダモ、コカナダモ、レッドグラス、セイヨウミズユキノシタ、ポンテデリア・コーダータ、エキノドラス・ラジカンス、ウォータークローバー。

これらは、すべて屋外の池や円形の水槽(直径3m、水深40cm)で栽培されている。小規模ながら、野外でムジナモやハエジゴク、ヨツマタモウセンゴケ、ガシャモクなどが順調に生育しているのは特に注目してよいと思う。水生植物園の今後のますますの発展を、水草研究会としても期待したい。(大滝 末男 記)

て。ホテイアオイ研 News Letter No.2 : 8 - 9.

大隅光善・千蔵昭二・吉留純一。筑後川下流域のクリク雑草「チクゴスズメノヒエ」の生態と防除 第2報 2,3の形態の特徴と生育特性。雑草研究 28 : 25 - 30.

森山義一。同 第3報 ほふく茎の萌芽力に関する調査。雑草研究 28 : 31 - 34.

片桐義昭。新潟市近郊に自生していたムジナモ。食虫植物研究会誌 34 : 91 - 92.

国井秀伸・生嶋 功。わが国における水草の生態学の歩みとその現状。『現代生態学の断面』(共立出版) : 255 - 261.

小宮定志。食虫植物の捕虫器官と進化。植物と自然 17 (6) : 13 - 18.

田野 宏。霞ヶ浦沖積低地の土地条件と蓮根生産。地理学評論 56 : 17 - 34。〔地理学あるいは農業経済学方面より、蓮根栽培を取り扱った文献は他にもありますが、このリストでは逐一取り上げません。当論文や、前回リストアップした手塚(1983)、等の引用文献を参照下さい。〕

富久保男。ホテイアオイ防除上の問題点。ホテイアオイ研 News Letter No.2 : 1 - 3.

友永剛太郎。ウォーターヒヤシンス。ホテイアオイ研 News Letter No.2 : 9 - 11.

浜島繁隆。ウキクサの生物実験教材への活用。第14回東レ理科教育賞受賞作品集 : 29 - 32, 112 - 113 (図版)。

安原健允。日本に産するマリモの研究 XI—フジマリモの糸状体についてのノート。日大文理(三島)研究年報 31 : 165 - 169.

矢野 亮。ガマとヨシ(身近な動植物のみわけかた 75)。採と飼 45 : 365.

湯浅 明。ミズニラの生活史。植物と自然。17 (6) : 19 - 24.

Ito, M. Studies in the floral morphology and anatomy of Nymphaeales. I. The morphology of vascular bundles in the flower of *Nymphaea tetragona*

## ○ 文献リスト <1983 - (2)>

S. Ashour (沖 陽子訳)。エジプトおよびスーダンにおけるホテイアオイ諸問題とその防除につい

- George. Acta Phytotax. Geobot. 34 : 18—26.
- Kondo, T. Phase shifts of Potassium uptake rhythm in *Lemna gibba* G3 due to light, dark or temperature pulses. Plant Cell Physiol. 24 : 659—665.
- Oota, Y. Floral inhibition in *Lemna paucicostata* 6746 due to night interruption. Plant Cell Physiol. 24 : 327—332.
- Shimoda, M. Deinostemato-Eriocaulatum hondensis(nov.) : communities of emergent pond shores in Hiroshima Prefecture, Japan. Jap. J. Ecol. 33 : 121—134.
- Suzuki, E. & H. Tagawa. Biomass of a mangrove forest and a sedge marsh on Ishigaki Island, South Japan. Jap. J. Ecol. 33 : 231—234.
- Tanaka, O., C.F. Cleland & Y. Ben-Tal. Effect of Ferricyanide, Ferrocyanid and KCN on growth and flowering in the short-day plant *Lemna paucicostata* 6746. Plant Cell Physiol. 24 : 705—711.
- <補遺 1976~1982>
- 沖 陽子・青山 勲. 1982. 自然水域におけるホテイアオイによるN、Pの除去能. 国立公害研調査報告 21 : 44—54.
- 竺 文彦・岩井重久. 1982. アオウキクサを用いた1次元生産力の測定方法に関する基礎的研究. 下水道協会誌 19(220) : 20—28.
- 福島和夫・山本修一・鶴崎 実・石渡良志. 1982. 水草(クロモ、*Hydrilla verticillata* Presl.)の微生物分解に伴う有機物組成の変化. 地球化学 16 : 9—16.
- 安原健允・新崎盛敏. 1980. 日本に産するマリモの研究 IX. 河口湖産および再び山中湖産フジマリモについて. 日大文理(三島)研究年報 28 : 101—112.
- Tsuchiya, T. & H. Iwaki. Impact of nutrient enrichment in a waterchestnut ecosystem at Takahamairi Bay of Lake Kasumigaura, Japan. II. Role of waterchestnut in primary productivity and nutrient uptake. Water, Air, and Soil Pollution 12 : 503—510.
- 新刊紹介
- P. Swindelles "Waterlilies" (Timber Press, Portland, Oregon, pp 159, 1983, 5,000円)
- 園芸家のためのスイレン類の概説書である。スイレンと人間との古いかかわりの歴史、その形態の特徴などについて簡略に述べたあと、自生種や栽培品種を多く取りあげ解説を付している。新しい品種がつけられた交雑の歴史なども記述して、最後は池の作り方と栽培法についてかなり詳しくふれている。この本で扱われている“スイレン”は *Nymphaea* が中心であるが、*Nuphar*, *Nelumbo*, *Victoria* などにも何ページかがさかれている。(角野)
- 水草関係文献目録(5)
- <1955 つづき>
- 山口久直. 余呉湖の湖底堆積物と高等水生植物. 陸水雑 17 : 81—89.
- <1956>
- 加崎英男. 日本産新属ホシツリモ *Nitellopsis* について. 植研 31 : 97—101.
- 斎藤国明. ウキクサ科植物の生活史. 採と飼 18 : 206—211.
- 佐々木正人. 車軸藻類の造精系分裂と精子のできかた. 遺伝 10(7) : 36—40.
- 新 敏夫. イチョウウキゴケ奄美大島に産す. 植研 31 : 248.
- 須賀瑛文. 愛知県における *Tolypella gracilis* Imahori (Charophyta) について. 植研 31 : 262—266.
- 杉浦忠睦. フジマリモの発見. 採と飼 18 : 258—259, 269.
- 竹中 要. 多頭蓮. 遺伝 10(7) : 56—57.
- 根津文雄. 虫を食べる植物. 遺伝 10(3) : 25—31.
- 本田正次. ビャッコイの原産地. 植研 31 : 191—192.
- 三木 茂. 水草と環境. 遺伝 10(7) : 32—35.